

平成 25 年度 第 1 回新潟市花育推進委員会 会議速報

| | |
|------|--|
| 日 時 | 平成 25 年 8 月 20 日(火)午後 2 時～午後 4 時 |
| 会 場 | 新潟市食育・花育センター講座室 A |
| 出席委員 | 石井委員、石川委員、伊藤委員、小川委員、関委員、高橋委員、竹内委員、 玉木委員、森田委員 |
| 欠席委員 | 片岡委員 |
| 傍聴者 | なし |
| 事務局 | 朝妻農林水産部長 食育・花育センター(大谷所長、木村所長補佐、田中技師、早川職員) 環境政策課(小林主査) 保育課(塚田指導保育士) 食と花の推進課(小林係長) 公園水辺課(桑原課長補佐) 学校支援課(岩崎指導主事) |

概要

(1) 平成 24 年度新潟市花育推進計画数値指標達成状況について

(事務局説明)

【資料 2】を基に説明

(主なご意見等)

- ・ 「5.全ての園児・児童が参加している保育所、幼稚園、小学校の割合」については、質問の仕方を変えない限り、数値としては意味を成さないのではないかと。
また、以前から議論されているが、当初に設定した指標内容は現在の状況ではたして適当であるかどうかの見直しが必要となっている。設定した当時は花育活動というものに不明な部分が多かったことが原因のひとつであるが、様々な取り組みを実施してきた中で明らかになってきたことも多く、花育活動全体としては大きく前進しているように思う。指標内容を新たに設定する時期を迎えているのではないかと。

→現在の目標は平成 26 年度までであるため、このまま継続して目標達成に努めたい。平成 27 年度以降の指標内容についてはこの委員会を中心に新たに設定していく予定であるため、より現状を把握したものにしていきたい。

- ・ 地域との連携については、地域教育コーディネーターに対して花育マスター制度を紹介する機会を設けてはどうか。
- ・ 「13.美しい農村景観の形成」については、花育との関係性がわかりづらいタイトルなので、「花の美しい農村景観の形成」としてはどうか。
- ・ 近年の外来植物(セイタカアワダチソウなど)の蔓延に背筋が寒くなる。このあたりも検討してもらいたい。
- ・ 野菜を育てることも花育活動に含めてほしい。

(2) 平成 25 年度花育推進事業の主な取り組みについて

(事務局説明)

【資料 3】【資料 4】を基に説明

(主なご意見等)

- ・ 体験プログラムは花育マスターと連携した方がよいのではないか。
またプログラムの企画自体も花育マスターの知恵を活用したらよいのではないか。
→ 現在は飛び込み的な急なものが多く、年齢も様々で対応に苦慮している面もあるが、食育・花育センター主体の事業ではあるのでなるべく自力で対応してきた。しかし今後は体験プログラムが増加していくと予想されるため、臨機応変に花育マスターの方々にもお願いしたい。プログラムの企画についても同様。
- ・ 花育カルタの読み札募集について、園児は読み札を考えるのは難しいが、絵札を書きたいという意見があった。
- ・ 植物の絵を入れるならば、特徴を正確に表したものをいれるべき。子どもには難しい。
→ メインで使うのは子どもなので、子どもが喜ぶものにしたい。手作り感もだしていききたい。子どもの絵をそのままメインに絵札にするのではなく、一部に採用していく方法もある。
- ・ 脳機能訓練プログラムのその後の展開と、日本花普及センターが発行しているマニュアル等の活用を提案した件についてはどうなっているか。
→ 市の関係課には既に話をしているが、各施設に関しては今後呼びかけしていくことを考えている。また、花育マスター向けの研修会をまずはスタートとして取り組んでいきたい。副読本については、昨年見本を取り寄せて希望者に配布した。必要に応じて情報提供ができるので活用してほしい。
にいがた花育通信にのせるのはどうか。
→そうします。

(3) その他

(主なご意見等)

- ・ 「28.高齢者、障がい者等が「花と緑」と親しむ園芸福祉の推進」については園芸福祉団体の活動現況をきちんと把握した方がよいのでは。また特定の園芸福祉団体に任せるのではなく、花育マスターに声をかけて希望者にやってもらうのもひとつの方法であり、より取り組みやすいのでは。また、脳機能訓練プログラムの活用にもつながる。
- ・ 新潟はチューリップの球根生産の発祥地なので、新潟市産の球根にふれる機会を増やしていきたい。新潟にはせっかく素晴らしい品種が育っているので、新潟市産の球根を万代橋などいろいろな所に活用してほしい。